

## 環境基準について

▼SS (浮遊物質質量)  
SS (エスエス) は、調査した結果が高いほど、水の中にいろいろな物質が含まれていることを意味し、水の濁りの目安となります。数値の単位は、 $\text{mg/l}$  です。

▼DO (溶存酸素量)  
DO (ディーオー) は、調査した結果が高いほど水の中に多くの酸素が溶けこんでいることを意味します。水の中の酸素は、水の中

おもな河川には、水質を守ることを目的として、環境基準が決められています。環境基準には人の体に害のある項目を対象とした「人の健康の保護に関する環境基準」と、わたしたちの生活に関わりのある項目を対象とした「生活環境の保全に関する環境基準」があります。

生活環境の保全に関する環境基準には、河川の水の利用目的に応じて、きれいな順に、AA類型、A類型、B類型、C類型、D類型、E類型の6つの段階が決められています。富士見町では、町内を流れる釜無川がもっとも水のきれいなA類型に定められ、宮川がA類型に定められています。

なお、わたしたちの身近に流れている中小河川には、環境基準は定められていませんが、流れ込む先の釜無川や宮川に定められている環境基準が、水質を守る上で目標となります。

### 河川における生活環境の保全に関する環境基準 (抜粋)

河川	類型	基準値					利用目的の 適応性
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	
釜無川	AA	6.5 ~ 8.5	1mg/リットル以下	25mg/リットル以下	7.5mg/リットル以下	50MPN/100ml以下	水道用水、自然探勝等の環境保全
宮川	A	6.5 ~ 8.5	2mg/リットル以下	25mg/リットル以下	7.5mg/リットル以下	100MPN/100ml以下	水道用水、水浴、ヤマメ・イワナ等の水生生物用

▼大腸菌群数  
大腸菌群数は、調査した結果が高いほど、水がたくさんの種類の大腸菌によって汚染されていることを意味します。数値の単位は、 $\text{MPN}/100\text{ml}$  で、MPNは「もっとも確からしい数」の意味で、100mlの中のもっとも確からしい大腸菌群の数を示します。

にすむ生きものにとつて大切です。数値の単位は、 $\text{mg/l}$  です。

## 水質調査地点

富士見町では、現在、19地点で河川の水質を調査しています。なお、No.5の宮川下(工場排水流入部)については、河川の水質調査とは別の項目で調査をしています。また、No.20の西の沢(西出口)は平成10年まで調査を行いました。

### 調査地点名

No.	調査地点名	No.	調査地点名
1	母沢川上	11	西平川
2	切掛川上	12	立場川
3	母沢川下	13	乙貝川
4	宮川下	14	武智川
5	宮川下(工場排水流入部)	15	程久保川
6	手洗沢川	16	切掛川
7	宮川上	17	鹿ノ沢川
8	一の沢①	18	釜無川
9	一の沢②	19	千ヶ沢川
10	二の沢	20	西の沢(西出口)

